

異常気象に備えたコンパクトで丈夫な稲づくりで 5 年産米の品質・収量を安定確保！！

1 4 年産米の品質・収量に影響した要因

令和 4 年は、水稻の生育期間全般にわたり下記の通り厳しい気象条件となりました。また、一部地域において 8 月 4 日に災害級の大雨に見舞われましたが、適切な管理によりコシヒカリの 1 等級比率は平年並の 80.3% (12 月末日現在) を確保できました。

しかし、中干しの遅れによる籾数過剰や穂肥の不足・早期落水による後期栄養の不足等により、品質や収量の低下がみられました。

気象	6 月第 2～3 半旬 低温・寡照	6 月第 4～7 月第 2 半旬 高温・多照	8 月第 3～9 月第 2 半旬 日照不足	9 月第 3～4 半旬 高温多照 台風 14 号	作況指数 98 (やや不良) コシヒカリ 1 等級比率 80.3%* ※JA 米穀検査データ (令和 4 年 12 月末日)	
	生育	下位分けつ発生少 茎数増加緩慢	急激な茎数増加 葉色低下・草丈急伸長	登熟不齊一 米粒の充実不足		胴割粒発生 屑米の増加
	管理	中干し開始の遅れ →籾数過剰	生育に応じた穂肥対応 穂肥の不足 (一部)	8 月下旬の降雨による 早期落水		適期収穫 適正な乾燥・調製

2 5 年産米の品質・収量向上対策

(「令和 5 年産主食用米の収量、品質の安定確保に向けた管理」参照)

令和 5 年度は以下の重点技術を実践し「適正籾数 28,000 粒/m²の確保」と「登熟期の適正水管理」により、異常気象に備えたコンパクトで丈夫な稲づくりを目指しましょう。

【重点技術】

- ①土づくり資材 (特にケイ酸資材) の施用
- ②健苗移植
- ③初期水管理の徹底 (活着前はやや深水管理、活着後の浅水管理、ワキの発生に応じた水管理)
- ④中干しは早めに実施 (田植え 25 日後に茎数確認、目標穂数の 7 割で開始)
- ⑤生育状況、天候に応じた適正穂肥 (3 回目穂肥、追加穂肥対応)
- ⑥登熟期の水管理 (飽水管理継続、フェーン時の湛水・水更新、出穂 25 日後以降の落水)
- ⑦適期収穫、選別

令和5年産主食用米の収量、品質の安定確保に向けた管理

異常気象に備えたコンパクトで丈夫な稲づくり

新潟農業普及指導センター

